

令和7年度天然物化学セミナー特別講演会

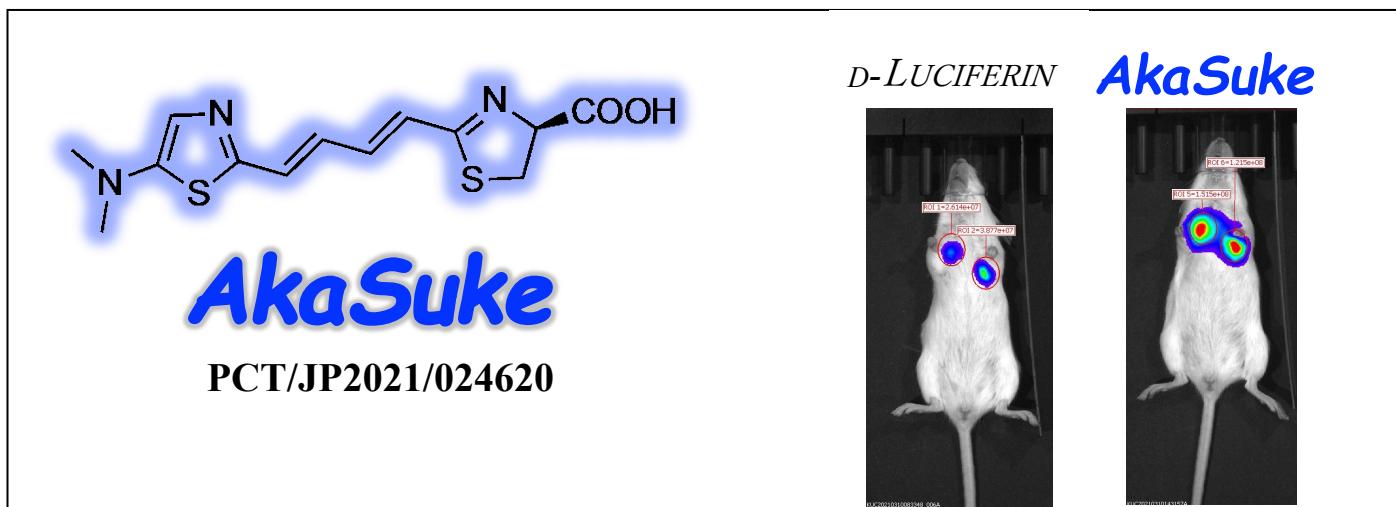
発光イメージング材料が拓く 生体内深部可視化と生命科学

講師：牧 昌次郎

(電気通信大学・大学院教授)

生体内の精密可視化は、生命科学、特に癌・再生医療への応用には必須の技術であるが、世界的にも、未だに有効な手立てが得られていない。電気通信大学では“Akalumine”(和光純薬工業株式会社), “TokeOni”(シグマ・アルドリッヂ合同会社), “SeMpai”(シグマ・アルドリッヂ合同会社)を国際的に製品化してきたが、何かが解決されれば、新たなニーズが生じる。

今回はこれら材料の創製過程と、住商ファーマより販売した“Akasuke”他を紹介する。



1. *Science*, **359**, 935–939 (2018).
2. *The Journal of Biochemistry*, **172 (5)**, 321-327 (2022).
3. *Cancer Science*, **114**, 3935–3945 (2023).
4. *Nature Communications* (2026). On website. DOI: <https://doi.org/10.1101/2025.01.20.633992>

日時：令和8年2月5日(木) 16:00～17:30

場所：生物農林学系 G棟5階 G502

司会者：繁森英幸(生命環境系 Tel 4603)

共催：微生物サステイナビリティ研究センター MiCS Microbiology Research Center for Sustainability